

9月1日は

防災の日

大正12年(1923年)9月1日に発生した関東大震災は、死者・行方不明者14万人以上という被害者を出しました。そのほとんどが地震後の火災による被害だったといわれています。

この大惨事を教訓とし、国民一人ひとりが地震、台風、津波等の災害に対する意識の高揚や、防災対策に努めて欲しいという願いもこめられ、昭和35年に、9月1日は「防災の日」として制定されました。

今では「防災の日」に合わせ、日本全国で防災訓練が行われています。

防災訓練に参加しましょう

地域や町で行われる防災訓練に積極的に参加し、地域の方々と連携を図りましょう。地域全体が良好な関係でまともれば、災害時に協力しあつて、被害を最小限にとどめることができます。



備蓄品の用意をしましょう

災害が発生すると、救助や救援がすぐ来られない状況となります。最低でも3日間は、自力で生活できるだけの備えをしておきましょう。また、あらかじめ、軽量でコンパクトな非常持ち出し袋を用意しておくこと便利

タンス等の上には角の鋭いものや重たいもの等は置かないようにしましょう。

徒歩で避難しましょう

地震が発生した場合、自動車を使って避難することは危険です。できる限り近所の人達と集団で歩いて避難場所に向かいましょう。

また、階段では走らないようにし、エレベーターを使って避難することも避けましょう。

なお、ブロック塀等は破壊や転倒の危険性があるため、危険箇所を確認しながら、避難しましょう。街頭では落下物を避け、ビルなどの建物から素早く離れましょう。

火災防止に努めましょう

初期消火をすることによって災害を未然に防ぐことができますので、近くにある消火器やバケツ等で積極的に消火活動に努めましょう。

地震が発生したら、落ち着いてガスの元栓、コンセントなどを処理し、電気のブレーカーも切つてから避難しましょう。

ただし、大きな地震をいきなり感じたときは、むやみに動く危険です。ある程度揺れがおさまってから行動しましょう。

津波に注意しましょう

地震が発生した場合、すぐに津波が来襲する危険性があります。海岸や海岸付近にいるときに大きな地震を感じたら、まずは海からできるだけ限



り離れましょう。なお、津波の来襲は1回だけとは限らないので、津波警報や注意報が解除されるまでは海岸に近づかないようにしましょう。

防災会議を開きましょう

「防災の日」を機会に、家族で防災会議を開きましょう。家族の連絡体制や避難場所、災害が発生した時に誰が何をするか、被害を最小限に止めるにはどうしたらよいか等を話し合ひましょう。

一人ひとりが災害に対する意識と知識を持つことで、いざというときに適切な行動をとることができます。また、地域全体の防災力の向上にもつながります。

なお、大災害が発生した時には下記のとおりNTTの災害時伝言ダイヤルによって被災者が安否情報を確認することができます。

NTT「災害用伝言ダイヤル」を忘れてイナイ(171)ですか?

大災害が発生した場合、安否確認等のため回線が込み合つてしまい、電話の使用が困難になる可能性があります。

このような状況になったときは、災害用伝言ダイヤルを利用しましょう。

なお、利用できる電話は一般電話、公衆電話等です。



【伝言の登録】

- ①ダイヤル171の後に1
- ②被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤル

(伝言内容は30秒以内)
※伝言保存期間は、録音してから2日です

【伝言の再生】

- ①ダイヤル171の後に2
- ②連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤル

◎問い合わせ

防災対策担当 ☎内線241